

教育講演会（県立総合教育センター）から

所外研修の第8回目として、8月3日（月）に沖縄県立総合教育センター主催の「第2回教育講演会『公開授業及び講演会』」に参加しました。

比屋根小学校6年生の算数の公開授業で、「子ども達の言葉には、算数的な価値のあるものが多い」ことを念頭におきながら、つぶやきや発問をひろいあげ子どもに返してあげる授業展開を行い、「なぜ、そうなるかな?」「なぜ、そう考えたのかな?」の2通の「なぜ」を問うことで、思考を連続させ、より深い理解へと導いていました。その後、授業を踏まえての「つながりを意識してつくる算数の授業」と題しての講演がありました。340名余の参加の中、本研究所の教育研究員の5名も理論とこれからの実践への結びつきを考えながら熱心に聞き入りました。

教育講演会の概要

公開授業 小学校6年生(算数)
演題 「つながりを意識してつくる算数の授業」
筑波大学附属小学校 教諭 夏坂哲志 氏



- 1 "つながり"って?
- 2 子ども言葉には、算数的価値のあるものが多い
- 3 思考を連続させることで、より深く理解する
 - 「なぜ」を考える。「なぜ」を説明する。 ○失敗を生かす
 - 子どもの「やりたい」「自分にできそう」という気持ちを引き出す
 - 子どもの考えたこと、子どもの表現とじっくり向き合ってみる
- 4 子どもの素直な言葉をつなげるための教師の構え



写真1 講演会にて

教育研究員の感想（研修日誌から）

公開授業・講演会は、教科は算数ではありませんでしたが、子どもたちの興味を引き出し、考える力を育てることは校種・教科を超えた全ての教育において目指すべき目標であることを再確認することができる内容でした。

授業の後の講演会では、計算問題を実際に自分で考え、子どもの立場を実体験する場面もあり、「楽しい」「もっとやってみたい」という気持ちになりながら考えることができました。実体験することで“わかる楽しさ”や“学ぶ喜び”につながる意欲を持たせることが大切であることを学びました。子どもの意欲を引き出す、既習事項や発達段階に応じたアプローチ、子どもの次の反応を予測して仕掛ける、子どもの考えや表現にじっくりと向き合う等、幼稚園教育との共通点も感じました。時間の関係上講話の中にはなかったのですが、「教師としての心構え」が資料にあり、これこそプロのテクニックなのだとなと勉強になりました。（金城さくら）

公開授業は、電話という生活の中からの題材で子どもの興味を引き出し、分かりそうですぐには答えがでない問題で考える力を養い、ペアで話し合わせたり、一人の発表やつぶやきを取り上げたりすることで、人と関わる等、生きる力の育成を図る効果的・実践的な取り組みをしていただけだと感じました。この中から、いろいろな「つながり」について考えさせられました。その中でも①算数の系統性や生活と結びついた算数の考え方、見方の重要性②「問い」の連続で考えさせる工夫③子どもたちや教師でつくり上げる授業の必要性を感じました。今後授業において「つながり」というキーワードを大切に意識することはとても重要だと考えています。取り入れられるところから1つずつ取り入れていきたいと思えます。（大城厚）

公開授業で印象に残ったのは、まちがえた考え方やみんなの考えと違う考え方を取り上げ、他の子に説明させたり、どこでつまづいたのかを意識して考えさせるという「失敗を生かす」ことや同じ考え方のように見えて実は違う考えをしている「微妙な違いに気づかせる」ことです。授業後の講演では、夏坂先生がこだわっていたつながりを意識する授業の工夫としていくつ挙げていました。その中でも、「なぜ」を考え、「なぜ」を説明させることは、私の道徳授業での発問の工夫につながると感じました。子どもたちの道徳的価値に対する表面的な理解にとまらせず、理由や根拠を深く追求することで、無意識から意識的に考えさせ、資料の主人公と自分を重ねながら考えを深めさせる（深く理解させる）ことができると考えます。教師のこだわりを子どもの学ぶ意欲と結びつけ、工夫点として生かしていく授業づくりを重ね、よりよい授業実践につなげていきたいと思えます。（長門照乃）

公開授業では、変化のきまりをどのように見つけさせていくのか、それを式で表すにはどこに着目したらいいのか等指導に戸惑うことが多かった単元でした。1番印象的だったのは、夏坂先生の「問いかけ」や「なぜ」の言葉かけによって子ども達は自然と考えをより深めていっている気がしました。また、子ども達に意思表示をさせる場面が多くあり、表示方法には多様なパターンがあり、子ども達は飽きず、安心して意思表示できていました。

講演では、“つながり”を意識することの必要性を改めて感じ、算数でも基本となる見方や考え方をしっかりつけていくことが大切だとはっきりわかりました。体育の研究でも「学習内容の系統化」が課題の1つであることがわかりました。体育における“つながり”について早く考えていく必要があると感じました。（具志堅智美）

子どもの発言（つぶやき）を出させるような問いだったり、子どもの発言をもとにして問題を設定したりと、自分の検証授業に似ているように感じました。夏坂先生は、この授業の本質を「規則性を見ださせる」ことよりも「規則性があるかどうかを考えさせる」にしているのではないかと思います。「問題を解くことができる」というところに授業のめあてを設定してしまいがちですが、この授業を見て、「本質的な部分はそこではない」ということがおぼろげながら分かった気がします。見えている問題と見えていない問題、そこを意識して教材研究をしていかなければいけないんだと、考えることができました。（古屋誠一）